

会 告

会員各位

一般社団法人 日本塑性加工学会
会長 岡田 政道

年会費の改訂について

第55期定時総会(2020年6月12日)第9号議案にて、以下の通りの会費改訂を議決いたしました。会員の皆様のご理解を賜りたく、お願い申し上げます。

記

会員種別	改訂前	改訂後
正会員	8,800円	<u>10,000円</u>
正会員(海外会員)	10,500円	<u>11,700円</u>
学生会員	4,200円	4,200円(据置)
学生会員(海外会員)	5,900円	5,900円(据置)
賛助会員	100,000円/1口	100,000円/1口(据置)

※正会員(永年会員)については据置となります。

上記の改訂は、2021年度(2021年4月～)より実施いたします。

詳しくは第55期定時総会議案書ならびに2020年4月号掲載の

「日本塑性加工学会の2021年度からの正会員年会費改訂についてのご理解のお願い」
(次ページに再掲載)をご参照ください。

以上

日本塑性加工学会会員の皆様

日本塑性加工学会の2021年度からの正会員年会費改訂に ついてのご理解のお願い

2020年2月28日

第55期 日本塑性加工学会理事会

会長 米山 猛

日本塑性加工学会の財務は、2012年度に一般社団法人に移行した後、2016年度に公益目的支出計画が完了するまで毎年赤字を続けてまいりました。2017年度以降は、公益目的支出計画が終了し、財務の赤字が出ない運営を維持していくことが求められております。しかし、2017年度においては、学会の運転資金が行き詰まり、分科会基金からの借り入れ、支部交付金の20%削減、分科会交付金の50%削減などの、応急的な措置を取るようになりました。2018年度には、引き続き支部・分科会への交付金の削減を続け、企画行事の絞りこみと参加費の値上げを行って、やっと赤字解消を行うことができました。2019年度においては、引き続き、支部・分科会交付金の削減を続け、企画行事の活性化に努め、事務関係の出費削減に努めて、黒字をようやく維持しています。

2009年から2018年までの年度収支を分析すると、事業収入はほぼ横ばい、支出もほぼ横ばいでしたが、この10年間常に支出が収入を上回り、毎年1000万円～2000万円の支出超過を続けてまいりました。これによって公益目的支出計画が執行できたわけですが、2018年度からは、収支の赤字解消が求められ、上記のように企画行事参加費の値上げ、支部・分科会への交付金のカット、事務運営費の削減によって収支バランスを維持しているところです。

この10年間の大きな変化は、正会員の減少が毎年進んでおり、正会員の年会費収入の減少が続いていることです。会員の皆様の御努力により賛助会員企業数は約400社に増加しており、このように多くの賛助会員企業様がおられることは、他学会には見られない、日本塑性加工学会の大きな特色です。しかし、正会員数は例年100名ずつ減少が続いており、60代の方の退会数が30代の若手の入会数を上回る傾向は、今後もしばらく続く予想されます。

今後も学会の収入増加の方策を工夫してまいりますが、確実な収入を維持することは必要であります。日本塑性加工学会の正会員年会費は、1983年度8,800円に改訂されて以後、37年間据え置かれてきました。他学会の年会費と比べても低額であり、活動にふさわしい年会費を設定して安定した収入を確保することは、今後の活動向上の励みになるものと考えます。このような事情から、2021年度より正会員の年会費を10,000円に改訂いたします。

この年会費改訂とともに、毎年の賛助会員企業の増加、企画行事等の収入の増加、会誌等の支出の削減、事務経費の削減などの施策を今後も続けていくことで、今後10年程度の収支バランスの維持を図りたいと考えます。

今後の活動内容の改善として、他学協会との連携事業等による活動の活性化、シニア会員の活躍の場の拡大、支出の大きい学会誌等の見直し、事務経費の削減などが大きな課題であると考えています。皆様との意見交換を活発に維持しながら、今後の活動内容の改善に努めてまいりたいと存じます。

この2021年度からの会費改訂について、6月12日の総会に諮り、決定する予定です。何卒、ご理解くださいますようお願い申し上げます。